
時間列車

空言

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

時間列車

【Nコード】

N8896P

【作者名】

空言

【あらすじ】

駅のホームで 空色の男が列車を待っていた

駅のホームに 空色の男がいた
まるで ヒトガタに切り取った空がそこにあるように じっとそこにたたずんで列車を待っていた

何分 何時間 何日間

または何年かもわからない

時折風が吹き抜けるたび 男は空を見上げた

しばらく待つうちに 最初の列車がやってきた

「この列車はどこへ行くのか」

空色の男は車掌にたずねた

すると車掌はこう答えた

「この列車は未来へ行きます

私たちは未来に向かって生きています

未来から逃げることはできません

だからこの先の未来を確認しに行くのです」

男はゆっくりと首をふり 列車から一步離れた

車掌が乗り込むと 列車は静かに動き出し ゆっくりと遠ざかって

行った

空色の男はそのまま列車を待ち続けた

何分 何時間 何日間

または何年かもわからない

時折風が吹き抜けるたび 男は足元を見下ろした

しばらく待つうちに 次の列車がやってきた

「この列車はどこへ行くのか」

空色の男は車掌にたずねた

すると車掌はこう答えた

「この列車は過去へ行きます

私たちは過去を背負って生きています

過去を消し去ることはできません

だから過った過去を正しに行くのです」

男はゆっくりと首を振り 列車から一步離れた

車掌が乗り込むと列車は静かに動き出し ゆっくりと遠ざかって行った

空色の男はひたすら列車を待ち続けた

何分 何時間 何日間

または何年かもわからない

時折風が吹き抜けたが 男はただ遠くを見ていた

しばらく待つうちに また列車がやってきた

「この列車はどこへ行くのか」

空色の男は車掌にたずねた

すると車掌はこう答えた

「この列車は 現在^{イマ}ではないところへ行きます

私たちは現在の中で生きています

現在から抜け出すことはできません

だから現在の外を探しに行くのです」

男は深くうなづいて ゆっくりと列車に乗り込んだ

車掌が乗り込むと列車は静かに動き出し ゆっくりと遠ざかって行った

空色の男を乗せて どこまでも どこまでも 走って行った

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8896p/>

時間列車

2011年1月8日20時51分発行